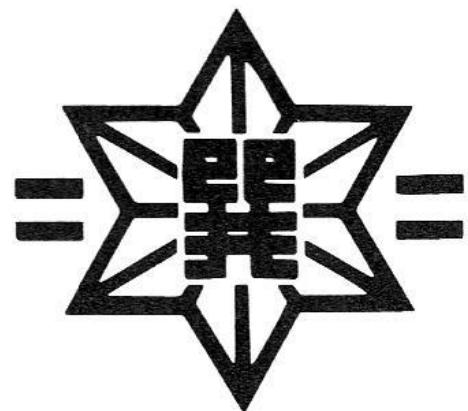


平成 29 年度

「運営に関する計画」

<中間評価>



大阪市立翼中学校

平成 29 年 11 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校全体として生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる環境になっているが、一部の生徒に遅刻や欠席が多く、基本的な生活習慣や学習習慣が十分身についていない。また自己肯定感が低い生徒も少ないととはいはず、学習意欲が低い状況にある。一人一人の自己肯定感を高めるために、日々の学習やさまざまな活動を通して課題や困難を解決する機会を設け、生徒が自身で考え、行動し、協力して取り組む「主体的・対話的で深い学び」を推進していくことが必要である。とともに、家庭と協力して生活習慣や学習習慣の定着に向けて継続した指導を行い、放課後や長期休業中の時間を活用した基礎学力の定着に取り組まなければならない。さらに、筋道をたてて話すことや文章を書くことが苦手な生徒も多い現状から、教育活動全体を通して「コミュニケーション能力」の向上に取り組むことが必要であると考える。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「学校的規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いませんか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 60% 以上にする。
- 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は地域と協力した取組を行っている」と答える保護者の割合を 90% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を平成 28 年度より 4 ポイント減少させる。
- 平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も、平成 28 年度より 4 ポイント減少させる。
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目に対して、「全くしない」と答える生徒の割合を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ・平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 82%以上にする。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より 1 ポイント増加させる。
- ・平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は地域と協力した取組を行っている」と答える保護者の割合を前年度より 1 ポイント増加させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 8 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- ・平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走・20m シャトルランの平均の記録を、前年度より市平均に近づける。

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目に対して、「全くしない」と答える生徒の割合を前年度より 1 ポイント減少させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立巽中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 82%以上にする。 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より 1 ポイント増加させる。 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は地域と協力した取組を行っている」と答える保護者の割合を前年度より 1 ポイント増加させる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない仲間作りをすすめ、お互いを認め合い、支え合う集団を育成する。 家庭や関係機関と連携し、生活習慣の乱れによる不登校の生徒数を減らす。 継続して遅刻防止のための登校指導や校区巡回を行う。 <p>指標・いじめ事案に対して 100%の対応を行い、解消に向けて取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校の生徒数を昨年度より減少させる。 	B
<p>取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」「時間を守る」「正しい服装」を日常的に全教職員で指導する。 委員会や生徒会の活動を活性化し、生徒主導で規律ある学校生活、行事の運営等を行う。 <p>指標・委員会や生徒会が毎日の登校時や月曜の集会時、行事の運営や活動を生徒主導で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年 1 回、芸術鑑賞会を行う。 	B

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- ・地域や諸団体と連携し、外部講師等を招いてキャリア教育や人権教育をすすめる。
- ・区図書館との連携を図り、図書館補助員と協力して、図書館の利用人数を増やし、読書ステーション、学習ステーションとしての図書館活用を昨年度より増やす。
- ・関係機関と連携した全学年対象の防災学習、教職員の研修を行う。

B

指標・土曜授業での防災学習、教職員を対象にした研修会を行う。

- ・図書開館時の利用人数の増加、その他の時間の図書館の活用回数を昨年度より増やす。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①友だちとのトラブルやいじめ等に対して指導を行い、保護者の協力を得て、解消に向けて取り組んでいる。不登校である生徒の中に、不定期ではあるが登校できる生徒もあり、継続して家庭と連携を図りながら関わっていく。遅刻数は減少しているが、固定化しており、生活習慣の確立・改善が必要である。

②全体的に規律ある集団づくりができている。しかし、生徒主導で十分な活動ができているとはいはず、工夫が必要である。

③区図書館と連携した学習を行い、図書館を活用している。学校図書館補助員の協力もあり、図書館の利用人数は増加している。外部講師を招いての人権教育・キャリア教育等を行った。

次年度への改善点

大阪市立巽中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率8割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走・20mシャトルランの平均の記録を、前年度より市平均に近づける。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を前年度より1ポイント減少させる。 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目に対して、「全くしない」と答える生徒の割合を前年度より1ポイント減少させる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業や研究協議等を通して、教師の指導力の向上を図る。 さまざまな機会・場面を利用して、「主体的・対話的で深い学び」の場を設け、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習を推進する。 元気アップ、コラボレーターと連携し、基礎学力の定着を図るための取組をすすめる。 <p>指標・各教員が年1回の研究授業に取り組み、2学期に亘りの授業を参観する週間の設定と研究協議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後やテスト前、土曜日・長期休業中の学習会を行い、生徒一人一人の基礎学力の定着と向上に努める。 	B
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> I C Tを活用した授業を各教科や学年等の取組で積極的に行う。 <p>指標・I C T活用に向けた研究を各教科・学年等ですすめ、活用の回数を昨年度よりもふやす。</p>	B

取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・基礎体力の向上を図るため、長距離走やシャトルラン、遠泳などに積極的に取り組む。
- ・集団行動の指導を日々の授業で行う。

指標・校内の調査結果において、体育の授業を楽しめていると答える生徒を昨年度より増やす。

- ・長距離走、距離泳・時間泳を行う時間を多く取り入れた授業を行う。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①授業の相互参観週間を設け、授業研究を行っている。

放課後の学習会には各学年から参加する生徒がおり、10名を超える日もあるが、参加数にむらがあるので、今後、活用を促していく。

②ICTの活用は、全教科・学年で昨年度より進んでいるが、後半はタブレットの活用を行っていかなければならない。

③体力の増進、集団行動の指導に積極的に取り組んでいる。

次年度への改善点